

エゾオオマルハナバチ

支笏湖 CGC の森の下草刈の日 2012 年 8 月 24 日。昼食時、テント近くのセイタカアワダチソウの花にマルハナバチたちが入れかわり立ちかわり訪れていました。エゾオオマルハナバチでした。この花にはいろいろな虫たちが寄り付いていましたが、それぞれが争うわけでも、仲良いわけでもなく、ただただ熱心にせわしなく吸蜜していました。花粉を食べるのだとすると直ぐに食べ尽くされてしまうだろうと思うのですが、花の変化を感じませんので、蜜を出しつづけているのでしょう。ちびちびと小出しにしていると見受けました。セイタカアワダチソウは周辺一帯に群生しているのですが、虫の集まるのは限られているように思えました。熟す時期がそれぞれずれているのでしょう。



マルハナバチといえばセイヨウマルハナバチが特定外来生物として駆除するように薦められています。見つけ次第殺せという指令です。ハチの仲間ですから刺される恐れから素手で掴まえる気にはなれません。捕虫網を用いている場合にのみ出来ることなので、絶滅させるのは至難だと思えます。区別できるようにセイヨウマルハナバチをよくよく見ておいてください。腹の黄色と白の部分が区別のポイントです。エゾは腹部上部が白で尾部が黄色ですが、セイヨウは上部が黄色で尾部が白です。北海道全域に拡大しているようですが、元を糺せば人間がヨーロッパから輸入して温室栽培のトマトの受粉に利用し、温室からの脱走蜂が自然繁殖して居ついてしまったわけで、ハチに罪はないのです。日高の平取のトマトは有名ですが、他方でこのセイヨウオオマルハナバチの被害の元凶の一つなのです。

セイヨウが何故だめなのかについては、蜜の採り方が受粉を助ける正攻法ではなく、盗蜜するからとされています。盗蜜とは花の蜜壺に直接外から口を刺して吸い取るという知能犯



だからです。そのために植物が受粉を妨げられて結実できなくなり、自然生態を乱すからです。特定外来生物の指定があるにもかかわらず、農業資材として位置づけられていて、監督官庁の許可を受けて、脱走蜂を出さない設備があれば使用してもよいとのこと。このあたりが何事も徹底できない日本民族の悲しい性であります。あーあ。